

南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobihiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 内山 昌一氏)

もと 本を求める

本山・佛光寺において、宗祖親鸞聖人七五〇回大遠忌法要が執り行われてから、ちょうど三年が経とうとしている。その翌年には西徳寺でも大遠忌法要が厳修され、そして今年はお出かけていく聞法会の三十周年を迎える。数々の節目を迎えるたびに、「これを機にますますの発展を」と感じるのだが、そもそも聞法会の充実とは一体何であろうか。

出かけていく聞法会は、「共に念仏のみ教えにめぐり遇いたい」という願いから発足した。単に仏法を誰かに推し勧めるのではなく、まず自分自身が仏法を聞く身に成りたい、だから「共に」と言われたのだろう。二十年経った今、私達はこの願いをどう受け止めているのだろうか。

そのことを考えてみると、曇鸞どんらん大師の「覈まじしに」とは、自分の足元を何度も厳しく尋ねる言葉である。祝うことも大切であるが、そもそも何が動機となって聞法会が生まれたのかを確認することが重要であろう。

聞法会とは、仏法を聞く会である。「他の誰でもない、この私自身が仏法を聞く身に成りたい」、この先人の声に応じることが聞法会の充実である。(高橋 淳記)

「出かけていく聞法会」30周年記念大会に向けて

西徳寺 混声合唱団「エコー」の友人が「本堂で練習していると、とても気持ちが落ち着きます」、更に「仏教歌をもっと歌ってみたい・・・」としみじみ述懐していました。

お寺はどなたにとっても安らぎの場なのですね。行くときはお墓参りだけでは本当にもったいないと思いました。

西徳寺の岸本住職は「お寺は生きている人たちの為にあるんです」と・・・。

「お寺に行くには勇気がいる。」と思われている方がいるとしたら、あの厳めしい門のせいでしょうか？お気づきの方もいると思いますが、山門の周りは植物の緑や季節の花に彩られています。

30年前のある日、大谷輪番（現最高顧問）から、お寺の門信徒の皆さんを地域毎に5ブロックに分け、出張して「聞法会」を開くことにしたので、との声がかかりました。それが「出かけていく聞法会」の始まりだったんです。

本来、お寺は地域の中心であり、人と人との“つながり”の場であったはずでした。幸い西徳寺には行動力のある大谷最高顧問と岸本現住職が在職され、故木村前住職がおられたからこそ、この聞法会は今日まで30年間休むことなく続いてきたのでした。

30周年記念大会を機会として、親鸞聖人のお言葉が聞法会で聴けることを、多くの方々に知ってもらいたいです。

6月14日（土）に開催される記念大会は形式だけでなく、楽しく過ごせるような催しを計画しています。更に食事・飲物も十分に用意しています。

ぜひ大勢の方にお出でいただき、これからも各ブロックにて続く「出かけていく聞法会」を更に盛り立てていく役割を担って頂きたいと願っています。



30周年記念大会実行委員会委員長
西徳寺評議員会会長

西徳寺混声合唱団 団長 竹内 乾一郎

出かけていく聞法会 30周年記念大会 日程表

6月14日（土）
浅草ビューホテル 午後2時～

6月14（土）、午後2時から「浅草ビューホテル」にて開催される「出かけていく聞法会30周年記念大会」ですが、すでに200名を超える参加申込みをいただいております。（5月13日締め切り）

当日は受付を午後1時より開始し、開場は午後1時30分からのご案内とさせていただきます。まだ申込をされてない方は、是非ともご参加いただきますようお願い申し上げます。

（主任 木村 記）

2:00 開会の言葉

勤行	嘆仏偈・一首引和讃・回向願以
挨拶	西徳寺住職 岸本 秀一
	責任役員 酒井 眞一
	評議員会会長 竹内 乾一郎
法話	西徳寺最高顧問 大谷 義博
節談説教	真宗大谷派 有隣寺住職 祖父江 佳乃

休憩

演奏会	西徳寺合唱団エコー
弦楽四重奏	NHK交響楽団 中村 翔太郎
	東京藝大 對馬 哲男 他2名
会食	乾杯

6:30 閉会の言葉

出かけていく聞法会 30周年によせて

西徳寺責任役員 ざかい 酒井 まさかず 眞一

聞法会という言葉も浄土真宗特有の言葉で、一般的には良く知られている言葉とは言えないと思いますが、それに「出かけていく」が付くとなると西徳寺以外では見たことも聞いたこともないというのが実際のところではないでしょうか。私のような企業人は他社との差別化とか個性化をいつも考え自分達の存在場所を得なければならないので、そんな癖からか「出かけていく聞法会」は西徳寺の強烈な個性として見えています。

にも拘らず聞法会がどうして生まれてきたのか、私自身、大谷長老（当時輪番）に尋ねたことはなかったように、それは西徳寺にとって自然で当たり前のこととして捉えられてきています。あまりにも多くの、あまりにも広い地域に檀家を持っていたが為に、分散し地域密着していることに合理性があったのかもしれないませんが、それだけではなく、お寺と檀家の心の繋がりが強かったのであり、大谷義博師の情熱と檀家の共感が運営の推進力となり、会の長きに亘る存続を可能にしてきたのだと思います。そう「出かけていく聞法会」は西徳寺中興ともいえる大谷義博師の理念の具体化そのものです。

今年、「出かけていく聞法会」は30周年という大きな節目を迎えることになりました。時代が経ち、寺側も檀家参加者達の顔触れも変わってきました。今「出かけていく聞法会」も変革期を迎えているようです。

“総代会”でいつも出る話題は「仏教の危機、即ちお寺の危機」の話です。

近年の都市における仏教離れ、お葬式離れはすさまじい限りです。従って経営できなくなっていくお寺も続出すると思われるというのが一致した意見です。西徳寺にあってもその流れに逆らって隆盛を続けるのは生易しいことではないと思われます。

私達のお寺は無くなっても良いものでしょうか。私達にお寺は必要のないものでしょうか。今こそお寺を必要だと考える人達を鳩合し、どうしたら良いかと考える時が来たのだと思われます。

その意味で「出かけていく聞法会30周年」はお寺再生元年ではなければなりません。幸い大谷長老・岸本住職を初めとして職員全員にはその意識を強くもって頂いています。

檀家の皆さんはこの30周年にける職員の熱気を感じていらっしゃるのではないのでしょうか。私はお寺が次の節目に向けてこの活動を檀家と共にどう変えていかなければならないか真剣に考えているということを是非お伝えしたいと思っています。

親鸞聖人のみ教えについては住職がその研究のエキスパートであることは論をまたないのですが、法務員全員が真剣に勉強し、その修得度は高いレベルにあることもお伝えしたいと思います。

ですから説法の有難さは今も変わることはないのですが、その一方私の見るところ俗の世界の処世についてはお寺の人達は幼稚なところがあると言わざるを得ません。苦勞についても様々な環境で長い人生経験を持たれた檀家の人々とは比べるべくもないと思われるのです。

いささか私見になりますが、これからの「出かけていく聞法会」は一方通行で僧が俗に教示をするというものだけでは誰もついてこない時代になっていると思います。



幸い西徳寺の檀家の中には様々な分野でエキスパートとなっている人が沢山いるのです。「檀家は仏法について学ぶと同時に仲間の檀家から様々なことを学ぶことができる。そして、そうしたことを通じて僧は俗について檀家から学ぶことができる」そうした双方向の聞法会、そんな聞法会が望ましいのではと考えています。

私見のことはともかく、この30周年を機会に檀家が本当に出席したくなる「出かけていく聞法会」はどうあったら良いのか、多くの人の議論が高まっていくことを期待したいものです。

新たな第一歩を踏み出す為に、できるだけ多くの方にご参加頂きたいものです。

一門徒として

千葉県在住 ながお まさお 長尾 将男 さん (城東ブロック会)



今回は城東ブロック会、同行会に参加されている、長尾将男さんにお話を伺います。

◆母をこくして

平成二十二年に亡くなった母とは養子の関係で、養子縁組したのは今から三十五年前。私が今、七十歳ですから、三十五歳の時でしたね。

私が定年退職してしばらくしてから、母の認知症が進み、私が世話をしなくてはと思いましたが、家事のことは素人ですので、かみさんと一緒に介護しましたね。子供たちも応援してくれ、家族皆で「良いとき」を過ごせました。今振り返ると、定年退職して何をしたらいいか分からない、自分の無力感を感じていた時期に、介護という仕事を与えられて助けられたな、生かされたなと思います。

母を看取るということを通して、今まで考えてこなかった宗教的なことに、関心が湧いてきたということでしょうか。そこにお寺さんから聞法会に来ませんか、と勧めただいて、その二つが重なって聞法会に参加させてもらうようになったんです。

◆西徳寺との関わり

母を看取る前は、西徳寺さんは

格式のあるお寺さんで、私が偉い人とか権威のある人に縮こまる性格です。そういう面では距離がありましたね。

それが聞法会で、日常の生活の話やをされているのを聞いたり、法事で自宅に来てもらった時に、一対一というか、家族とお坊さんという形でお互いの色々な話をさせてもらえるようになって、非常に身近に感じられるようになりました。

◆一門徒として

昨年のお盆にされたアンケートの結果を読ませてもらうと、意外だったというか、そうなるのかなと感じたのが、仏教に対する関心が先祖供養という回答が多かったことです。他のお寺で聞いても、傾向としては同じ結果になるのかなと。それだけでいいのかというところもあって、難しいですね。そこは悶々としています。

微力で何も出来ないですけど、門徒として出来ることを、という意識で聞法会に参加させてもらっています。他の門徒さんやお寺の皆さんと、勤行や懇親会も、ご一緒させていただくということをこれからも大事に聞法会に参加していきたいですね。

(聞き手 仲井真裕)

日誌

- | | | | |
|-----------|---------------------------------------|-----------|---------------------------------|
| 3月18日～24日 | 春季彼岸会 | 4月1日～4月2日 | 本山 式務修習生研修第一回講習会 (蓮井 参加) |
| 3月22日 | 聖徳太子奉讃会・本山特派布教・春季永代経法要
布教使 田中 美知男師 | 4月4日 | 出かけていく聞法会30周年記念大会実行委員会
定例聞法会 |
| 3月27日 | 『唯信鈔』に聞く(第4回) 講師 宗 正元師 | 4月5日 | 混声合唱団「エコー」総会・練習 |
| 3月27日・28日 | 宗祖忌 | 4月7日・8日 | 中興忌 |
| 3月29日 | 同行会修習式 「正信偈の教え」に聞く
法話 山崎 哲 | 4月10日 | 東京教区 教区会 |
| 3月30日 | 中央ブロック会聞法会
(湯島天神・梅香殿 参加者31名) | 4月12日 | 同行会総会「正信偈の教え」に聞く
法話 高橋 淳 |

一生、生きもののいのちをいただき、ゴミを出し続けていくわたし、「歩けなく、なつても預金は「管理する」わたしに、救いがあるのでしょいか。菩提流支三蔵に出遇つて、浄土教に深く帰依された曇鸞大師は、龍樹菩薩の他力易行のお念仏の教えに導かれ、天親菩薩の『無量寿経優婆塞舎願生偈』（『浄土論』）に出遇われて、『無量寿経優婆塞舎願生偈註』（『浄土論註』）という註釈書を作られました。

そこで、大師は、「五濁の世（正信偈の話⑥参照）無仏の時」に、自分の力で救いを得ようとするこの、根本的な誤りに気づかれ、阿弥陀仏の浄土に生まれる救いを求められました。しかし、すべての人々とともに浄土を願うことで、さらに見えたのは、わが身だけが自分だと思い、自分中心の環境をよくしようと思つたりかたで、共に生きていく事実が顛倒している自分の相でありました。それは、自分の思いに縛られて、一人相撲をし、輪転し苦悩している、虚偽の姿でもありました。それで、天親菩薩が明らかにされたお浄土（報土）の光景は、そうした救われないわれらの生き方を

を徹底して知らせ、一人ももれなく救わんとする、阿弥陀仏の誓願（本願）に報われた世界であるということとを、頭かにされました。だから、報土が立てられた原因と結果の二つ一



正信偈の話 ③③ 松井憲一

天親菩薩論註解 報土因果頭誓願 往還回向由他力 正定之因唯信心

（天親菩薩の論を註解して、報土の因果、誓願に顕す。往還の回向は他力に由る。正定の因は唯信心なり。）

こうして、わたしたちが阿弥陀仏の浄土を願い、浄土に往くことを「往相」といい、浄土に往生した人が、虚偽のこの世界にはたつきかけることを「還相」といいます。わたしが、浄土に往くことは、自分が救われることです。しかし、自分だけ救われるのではなく、共にたすかることは成り立ちません。共に生きるわたしは、自分が救われることと、他人が救われることは一つですから、他の人びとと共に、浄土に往けるようはたらきかけているのです。しかし、煩惱の身のわたしたち

つは、そのままわたしたちを、浄土へ往き帰らしめる因と果であるといわれました。それで、「天親菩薩の論を註解して、報土の因果、誓願に顕す」といわれるのです。

れた先生がおられます。もったものは、すてることもできません。できているものは、どうしようもありません。そこに、往相も還相も自分からはあり得ないと頭が下がり、深く信ずるところにひらけたのが、阿弥陀仏のご回向による往相・還相でありました。それで「往還の回向は他力に由る」といわれます。「他力」は、人任せということではありません。阿弥陀仏の願いによる呼びかけ、「本願力」が身に満ちた感動です。それで、親鸞聖人は、曇鸞大師を「弥陀の回向成就して往相還相ふたつなりこれらの回向によりてこそ、心行ともにえしむなれ（高僧和讃）」と讃えられます。

だから、弥陀の回向成就によって、浄土往生が正しく定まる（正定）とは、自分の力で何とかなるといふ思い上がりの懺悔・信心ではないのです。信心は、「本願他力をたのみて、自力をすつるをいふなり、これを唯信」という。（『唯信鈔文意』）、といわれるように、阿弥陀仏の本願に出遇つて、自力をはなれる心です。それで、「正定の因は唯信心なり」といわれるのです。

には、どれほど自分の力を尽くしても往相も還相もすることができません。「煩惱の身」というのは、煩惱もつて身ということではなく、煩惱のできている身ということだといわ



山門の言葉

失ったものは、
与えられていたものであった



東北の大震災のとき、聞いた言葉である。物はもちろん、家族も、このいのちさえも与えられていたものであった、という深いうなずきである。

先日「荷降ろしうつ病」という耳慣れない言葉を聞いた。被災にあった、人、生活、物を失い、全国の励ましに会い、仮設に入居し、努力して仮設から出ることもできた。そのとき、涙が溢れ、思い出が駆け巡り、3年たって、うつ病になった。やっと果たし遂げたとき自分自身が大変なことになっていったという。

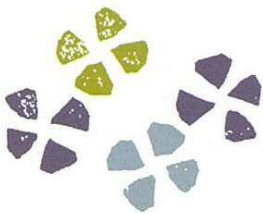
随分前ではあるが、NHKの「一番に挑む人々」という番組を見た。約60年前英国のグッドマン医学博士の提唱した「失われたものを数えるな、残されたものを最大限生かせ」との言葉は、その後パラリンピックとして実を結んだ。

その博士の言葉に応え、事故により片足となり、松葉杖でフルマラソンをし、ギネスの記録に加えられた人がいる。その彼が、あるチャリティーで、

余命半年という子供をかかえた母に、「あなたは素晴らしい」と微笑みかけられ、逆はどうして、その状況で微笑むことができるのかと訊ねた。するとその母親は「悲しみは来る、だから今は楽しむの」と応えた。

それから、彼は、自分のためだけではなく、誰かの励ましになる生き方を選んだ、とテレビで紹介されていた。

(岸本 秀一 記)



えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

三重県	東光寺 様	江東区	野口 一恵 様
岡山県	正覚寺 様	葛飾区	加藤 護 様
滋賀県	専光寺 様	三郷市	青柳 啓一 様
愛知県	西村 知津 様	練馬区	関本 淑子 様
松戸市	野坂 敏明 様	港区	安井 均 様
千葉県印旛郡	星野 建一郎 様	台東区	入倉 晴治 様
船橋市	津田 敏昭 様	大和市	齊藤 祐三 様
台東区	大林 藤枝 様	荒川区	高崙 博 様
福生市	木野村 幸彦 様	大田区	今井 トシ 様
世田谷区	山瀬 枝 様	板橋区	木下 好江 様

ご本尊、仏具等の引き取りについて

引っ越しや同居が理由で今までのお仏壇が置けなくなってしまったという方が増えております。西徳寺では、ご本尊は大きさを問わず随時引き取らせて頂いておりますが、お仏壇については高さ・幅・奥行きともに60cm程度が限界というのが実状です。

それ以上の大きさのものは仏具店に引き取っていただくことになります。費用については各社様々ですが、60cm程度のもので2万円前後からが相場のようなようです。他社製品、自社製品によって違うところもあります。また出張によるお引き取りについては距離に応じての費用がかかる場合がありますので、お付き合いのある仏具店がございましたらご相談してみてください。

お付き合いのある仏具店がない方、また心当たりのないかたは以下の仏具店（西徳寺と取引のある仏具店）にご相談してみてください。

●【京仏具小堀】

《東京店》東京都台東区西浅草 1-6-5 TEL 3843-6961 9:00～17:30 定休日(木)

《練馬店》東京都練馬区高野台 2-27-23 TEL 5393-3201 9:30～6:00 定休日(日) お彼岸お盆期間は無休

●【滝田商店】

《本社》東京都台東区寿 2-8-11 TEL 03-3841-6191

《本社工事中仮店舗：平成27年4月まで》東京都台東区寿 2-7-16(電話番号は同上) 9:00～18:00 年中無休

●【若林佛具製作所】

《東京店》東京都大田区仲池上 2-8-13 TEL (03)3755-8488 9:00～17:30 定休日(水)

《築地店》東京都中央区築地 3-15-1(築地本願寺第二伝道会館内) TEL (03)3546-8228 9:30～18:00 定休日(日)

読者の声

ご無沙汰申し上げております。毎月「ともしび」と「えこお」お送り頂きありがとうございます。

今冬は珍しく大雪の日が二回もあって、慣れない都会生活をしている方々は御苦労をなさった様ですが、ようやく桜便りもきこえる暖かさになりました。

先月の眼科の検診で、良い方の左目に新生血管が出て水がふくらんでいるとの事で、日常生活は普段通りでもかまわないが、余り無理をしない様にと言う事で、もう五回も硝子体に注射をしているので、又と思うと一寸つらいなと感じる此の頃です。右の目は余り役に立たないので、現在では左目が頼りです。失明している方から見れば、私はしあわせだと思いつら暮らししていますが、いつもお伺い出来なくて申しわけございません。

まだ寒い日も多い季節でございます。みな様、呉々も御自愛下さいませ。取りいそぎ御挨拶まで。

3月20日

(平塚市 村越 和子 様)

法話を聞きに伺いたいのですが、年を取り遠出が無理ですので、気持ちですが「えこお」にでもお役立て頂けたら幸でございます。
(大田区 今井トシ 様)

梅のつぼみがふくらみ、春らしさを感じる今頃です。東京は雪が多かったようですが、台東区はいかがでしたでしょうか。いなべ市はちらちら雪で、積もる事もありませんでした。

いつも「えこお」お送り頂きありがとうございます。紙面より聞法させていただいております。皆様、ご自愛の程お念じ申し上げます。 合掌

(三重県・いなべ市 東光寺 様)

西徳寺様

「えこお」「ともしび」を毎月お送りいただき、有難うございます。どうぞ、今年もよろしくお願ひ申します。

3月4日

(名古屋市 西村 知津 様)

掲示板

平成26年 5月

- 9日(金) 午後2時 出かけていく聞法会30周年記念大会実行委員会
10日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 仲井 真裕
13日(火) 午後4時 総代会
17日(土) 午後1時半 定例聞法会
18日(日) 午後2時 城南ブロック会総会・聞法会 (大井町きゅりあん)
21日(水) 午後1時 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
22日(木) 午後1時半 『唯信鈔』に聞く(第4回) 講師 宗 正元師
24日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
午後6時 同行会「正信偈の教え」に聞く 法話 岸本住職
25日(日) 午後2時 城西ブロック会総会・聞法会 (中野商工会館)
27日(火) 午後7時 仏教青年会『歎異抄』に聞く 講師 宗 正元師

同行会修習式・総会

3月29日(土)、本堂において平成25年度「同行会修習式」を執り行い記念品並びに修習証が授与されました。皆勤賞は安藤貴史様、吉川喜章様、石井正一様。精勤賞は高塚圭子様、野平耕志様、長尾将男様が表彰されました。

新年度を迎えた4月12日(土)、伽羅の間において平成26年度「同行会総会」を開催しました。今回は修習式・総会を通して会員の皆様から同行会に対するご意見を頂き、改めて念仏を共に学び、何よりも自分自身が聞いていくという「同行」の心が確認されました。その上で今年度の計画案を練り直し、近々に再度提案させて頂くお約束のもと承認を頂きました。

(同行会担当 山崎 哲)



中央ブロック会聞法会

去る3月30日、中央ブロック会聞法会を湯島天神・梅香殿にて行いました。今回初めてお越し下さった八木幸男さんなど、合計31名で開催しました。

本間会長からは挨拶の中で、小切手を使った振り込め詐欺の手口の話をいただき、岸本住職からは阿弥陀仏のはたらきを十二の光で表された法話をいただきました。法話の後、ある会員さんからは「修行をしたら怒らなくなるものなのか」という質疑が飛び出すなど、終始和やかな聞法会となりました。

次回は**10月12日(日)**に**西徳寺本堂**で開催します。皆さんのご参加を心よりお待ちしております。

(中央ブロック会担当 高橋 淳)

城北ブロック会聞法会

去る3月9日(日)、王子北とびあにおきまして、20名参加のもと城北ブロック会聞法会を開催しました。

竹内評議員会会長ならびに関川会長の挨拶では、6月に開催される「出かけていく聞法会30周年記念大会」に向けての意気込みや、できるだけ多くの方に参加していただきたいという願いが語られました。

法話では、今回のテーマである「釈尊誕生の意義」ということで、釈迦如来がこの世にお生まれになったのは、一切衆生を救いたいという阿弥陀仏の本願を説くためであり、私たちにはその教えを聞き続けていく大事な使命が託されているということを教えていただきました。

質疑の時間だけではならず、懇親会でも時間一杯まで質問が出され、大変盛り上がりました。

次回は**6月29日(日)**、**川口リリア**にて、総会・聞法会を開催いたします。多くの方のご参加をお待ちしております。


(城北ブロック会担当 蓮井 邦宗)

編集後記

五月は「皐月」ともあrawし、耕作を意味する「さ」から、稲作の月として「さつき」と呼ばれるようになりました。または早苗を植える月「早苗月」が略され、「さつき」になったとする説もあります。

皐こという字には「神に捧げる稲」という意味があるため、田植えの時期を「皐月」としたともいわれています。大地に支えられ、大地の恵みに感謝して生きてきたのが人間の歴史だと教えられる言葉ではないでしょうか。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

 saitokuji@ce.wakwak.com